



NDYS in Action, Newsletter

- 防災世界子ども会議(Natural Disaster Youth Summit) -

Vol#2

February 1, 2008

編集&翻訳

加藤言人 神戸・日本



NDY コース編集局

トピックス

防災についての世界の知恵

国際復興フォーラム

国際復興フォーラム



ジェレミー・コリモアさん(カリブの防災関係者)と偶然お会いすることが出来ました。

私はこのフォーラムに参加し、たくさんの新しい事実を見つけることが出来

ました。特に、サルバノ・ブリセーニョさんの講演には感銘を受けました。実は、彼の講演を聴くのは2回目だったのですが、私は今回も、彼の言葉に影響を受けました。彼は、「災害とは、自然には起こらない。」という言葉は何回も使います。私は前の講演でも、この言葉を聞いたのですが、今回も、とても納得することができました。確かに、「自然現象(Natural Phenomenon)」それ自身はめったに災害を引き起こしはしません。災害を引き起こすのは、人間が造った建造物を含む地球環境なのです。私は、「自然災害(Natural Disaster)」を「自然現象(Natural Phenomenon)」と呼ぼう、という彼の提案に賛成します。災害は、自然には発

生しません——災害は防ぐことができるものなのです。UN/ISDR(国連防災戦略事務所)は2008年から2009年にかけての大きなテーマを「安全な病院」とし、「自然現象(Natural Phenomenon)」が起きたときに人の命を守る建物である病院自体を守ろう、というキャンペーンを展開しています。私は、UN/ISDRがより多くの病院が安全にできることを、期待しています。

話は変わりますが、私はこのフォーラムに参加して、若い人が少なすぎると感じました。実をいうと自分と同年代の人を一人も見なかったのです。確かに、このフォーラムは大人向けのものではありませんでしたが、もっと多くの若者がこのような場所に参加してしかるべきでしょう。授業などで、インターネットを通して調べただけでは得られない情報がたくさんあります。私達は次の防災を担う世代として、もっと積極的にこのフォーラムのような場に参加すべきだと思います。

「防災」というコンセプトは、災害を体験したことのない多くの人々にとって身近なものではありません。確かに私達は人生の中で一回も「自然現象(Natural Phenomenon)」を体験することがないかもしれません。しかし、もしそれが起こったとき、その「現象(Phenomenon)」を「災害(Disaster)」にするかどうかは、私達にかかっています。私達は常に準備をしていなければなりません——私達の命を守るのは私達自身しかいないのだから。

もっと言いたい事があったのですが、今回はスペースがなくなってしまったので、次回に書くことにします。では、また次回!

1月24日に神戸市にあるJICA兵庫で国際復興フォーラムが開かれました。このフォーラムはInternational Recovery Platform (IRP) 事務局、JICA兵庫国際防災研修センター、UN/ISDR兵庫事務所、アジア防災センター(ADRC)などの主催で、開かれました。

このフォーラムのテーマは「よりよい復興に向けた防災人材育成」です。始めに、UN/ISDR事務局長でいらっしゃるサルバノ・ブリセーニョさんによる基調講演がありました。そして、防災に深く携わっている、たくさんの方々から、いまの自然災害や防災についての、世界の状況を聴くことが出来ました。

フォーラムはとてもためになる情報にあふれていて、一人ひとりの参加者全員が何かを得ることが出来たと思います。

このフォーラムの内容は、今ウェブサイトで見ることができます。もし、興味のある方がいれば、<http://www.recoveryplatform.org/jp/recoveryforum.html>にアクセスしてみてください。会場の様子を収めたビデオや、実際の発表に使われた資料などを見ることが出来ます。



I can give 1st News Letter to Mr. Briceno!



トピックス

気候変動と防災

命を守る / アルゼンチン-サルタ

命を守る

アルゼンチン-サルタ

嵐・洪水

嵐の増加により、サルタ市の北部ではたくさんのトラブルが発生しています。18日に政府は「簡易食事宿(Mobile Eating Inn)」を設置し始めました。ここでは、人々が一日三回の食事を得ることが出来ます。4つの「簡易食事宿(Mobile Eating Inn)」が市内各所に設置予定です。



CCP から来た作業員が、「簡易食事宿(Mobile Eating Center)」を建てているところです。

Pilcomayo 川はその水位を増し、Santa Maria と Santa Victoria East side (ボリビアの南部とアルゼンチンの北部)の各地域で洪水を引き起こしています。洪水は CCP (Center for the Citizen Protection) が住民を避難させるほど深刻ではありません。政府は孤立した 3500 人以上の住民に対する空輸による支援を計画しています。孤立地域に住む住民には靴、食料、マットレス、そして医療援助が提供されます。この計画は川が、現在 6.20mある水位を下げるまで継続される予定です。



Pilcomayo 川による洪水被害

Editor: Sergio Daniel Paz;
Salta-Argentina.

トピックス

気候変動と防災

子どもたちの絵が日々を豊かにする / 西アフリカ ギニア・コナクリ



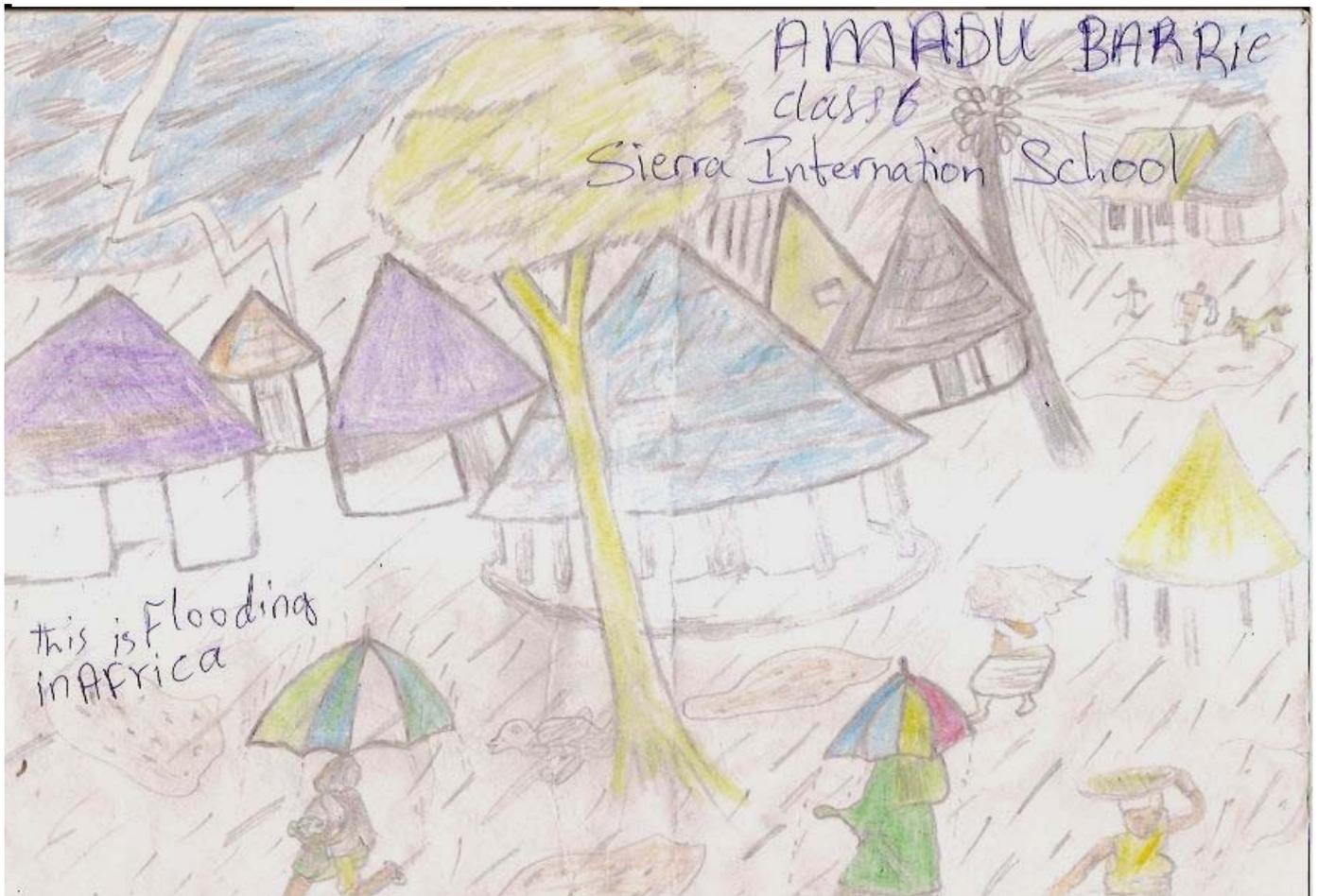
子どもたちの絵が日々を豊かにする

西アフリカ ギニア-コナクリ

洪水

シエラインターナショナルスクールの子どもたちは、彼らの学校について美しいものを描きます。そして、その中のいくつかは、自然災害への興味や、それへの彼らの見方や想像を表現するものでした。彼らのような若い人々は、国民全員に防災について知ってもらいたいと思っています。このようなメッセージが誰からも見ることが出来ることはとてもいいことで、これから真似されるべき例でもあるでしょう。

最後の写真では、彼らが植林をしている姿を見ることができます。私たちが知っているようにそれは、毎日のように木が切られていく今、とても重要なことです。これは、世界へ向けての、もう一つの有意義な発信です。



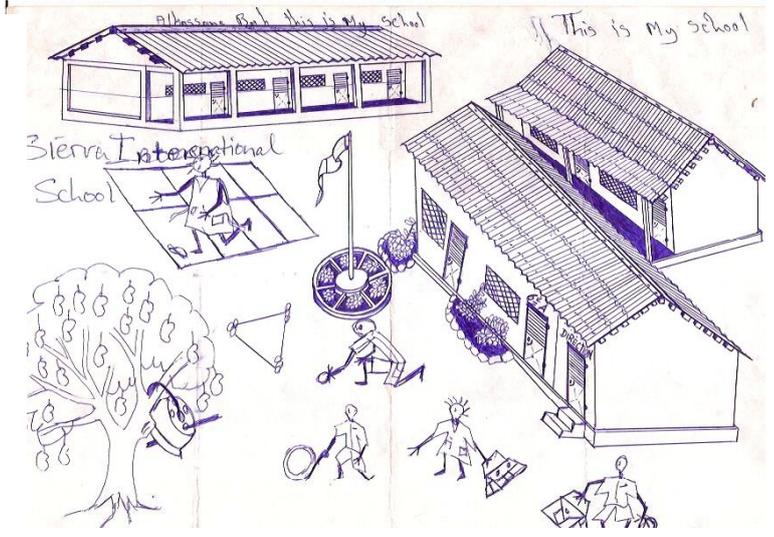
西アフリカ ギニア-コナクリ





シエラインターナショナルスクールの生徒と教師が植林をしています。

アフリカでの植林



編集後記：私はこのニュースレターが、これから大きくなるものの第一歩だと信じています。メディアを使って情報発信をするとき、私たちは人々が何を望んでいるかについて、知っていなければなりません。それはなんなのでしょう？それは、情報とコミュニケーションです。私たちはトピックを通して、みなさんに理解してもらえれば幸いです。

Sergio Daniel Paz
アルゼンチン-サルタ
「NDYS2005 in ひょうご」参加者

■ 詳しい情報については下記までご連絡ください ■

ndys@jearn.jp http://ndys.jearn.jp

NDYS 事務局：〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1 ひょうご国際プラザ活動支援室気付

NPO 法人 グローバルプロジェクト推進機構 JEARN 事務所内



コミュニケーションが命を救う！
<http://ndys.jearn.jp/>